

令和5年度学校自己評価システムシート (県立北本高等学校)

| | |
|--------|----------------------------------|
| 目指す学校像 | 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校 |
|--------|----------------------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 基礎基本を重視し、確かな学力の育成及び体力の向上を図る。 2 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 3 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 4 地域連携事業を推進し、生徒の社会性及びコミュニケーション能力を育む。 |
|------|--|

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|---|
| 出席者 | 学校関係者 | 名 |
| | 生徒 | 名 |
| | 事務局(教職員) | 名 |

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | 年度評価(月日現在) | | |
|--------|--|--|---|---|------------|-----|-------------|
| 年度目標 | | | | | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | | | |
| 1 | 授業に意欲的に取り組んでいる生徒が多くいる現状であるが、更なる基礎学力の向上が重要である。また、生徒1人1台タブレット端末を有効活用した授業の工夫及び改善が必要である。観点別評価においては、前年度の点検を行い、見直しや改善を行う。 | 組織的な教育力の向上 | ①「主体的・対話的で深い学び」の授業実践と授業研究を行い、教育力の向上を図る。 ②生徒が1人1台タブレット端末を有効に活用できる授業への工夫・改善に取り組む。 ③観点別評価を教科内で点検し、課題等を全教員で共通認識し、改善を図ると共に、三者面談時に生徒、保護者へ説明を継続的に行う。 | ①「授業がわかる」という生徒の割合が90%以上か。 ②生徒が1人1台タブレット端末を効果的に活用できたか。 ③教科会議や職員会議において、課題等を共通理解でき、見直しや改善が実施されたか。 | | | |
| 2 | 進路指導を段階的に行い、生徒の進路に対する意識を向上させることは、生徒の進路選択において必要不可欠である。また、生徒が進路活動を充実させるためには、保護者との連携を強化させていく必要があり、生徒の進路実現に向け、きめ細かな指導の継続が重要である。 | 段階的な進路指導の継続 | ①進路通信を定期的に発行し、生徒及び保護者に対して最新の情報提供を行い、進路掲示板等の有効かつ積極的な活用を充実させ、情報共有を図る。 ②保護者向け進路説明会を継続的に行うと共に、家庭とのさらなる連携強化を図る。 ③長期休業中等を計画的に活用し、進路実現に向けた個別指導や面接指導を充実させる。 | ①生徒及び保護者に対し、最新の情報提供ができたか。進路掲示板等が効果的に活用できたか。 ②保護者向け進路説明会が実施され、家庭との進路に関する情報共有が行われたか。 ③個に応じた進路指導が計画的に実施できたか。 | | | |
| 3 | 生徒指導上の問題行動や整容指導件数は減少し、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。しかし、登下校時の自転車における交通事故及び外部からの苦情があるため、生徒に交通安全の意識付けを行うことが重要である。また、多様な生徒が多く入学するため、個に応じた支援を継続的に行うことが不可欠である。さらに、全教員で情報共有し、組織で対応する体制づくりが必要である。 | 規範意識の向上と主体性の育成 個に応じた支援の推進と組織的な体制づくり | ①生徒指導上の問題行動や整容指導を時代や世論等の考え方を取り入れながら、継続的に取り組み、主体的に生徒が基本的生活習慣を確立する指導を推進する。 ②生徒に交通安全指導を含めた社会的ルールを徹底させ、交通事故を防止する。 | ①定期的な生徒指導を生徒指導部及び学年で検討し、具体的な改善があったか。 ②交通事故件数及び外部からの苦情件数は減少したか。 | | | |
| 4 | 本校は、地域との連携が不可欠であり、その中でもK I S E P(北本市小・中・高相互交流事業)は重要な交流事業である。K I S E Pの実施においては、継続的な市内の教育委員会や小中学校との連携が必要である。また、生徒募集や本校の強みと魅力を外部に発信するため、保護者や中学校教員向けの学校公開を実施することやHPの充実が有効的な手段である。開校2年目を迎える騎西特別支援学校北本分校との連携を強化し、共に学ぶ機会を増やすことや発展させることが重要である。 | 地域交流の推進 本校魅力の効果的な広報活動 | ①交流事業の意義を踏まえ、北本市教育委員会及び中丸小学校、市内中学校と連携し、より良い計画を立案し、実施する。 ②北本市役所、鴻巣警察署、北本市自治会、北本市観光協会等と積極的に連携を図り、可能で効果的な交流事業を実施する。 | ①北本市教育委員会及び中丸小学校、市内中学校と連携し、K I S E Pの計画立案、より良い活動が実施できたか。 ②地域機関と積極的に連携を図り、効果的な交流事業に向けた計画が立案され、実施できたか。 | | | |
| | | | ①保護者や中学校教員向けの学校公開を実施することや学校HPの充実および積極的な発信により、本校の魅力を最大限に広報する。 ②北本分校と積極的に連携し、共に学び、協力し合う教育環境を構築し、本校生徒及び分校生徒が共生社会を理解すると共に実現する。 | ①本校の魅力について、中学生や保護者、中学校教員等に広報され、適切な情報発信はできたか。 ②分校連携委員会が、定期的開催され、有意義な情報共有が行われ、多くの場面で交流が行われたか。 | | | |

| 学校関係者評価 | |
|-------------------|----------|
| 実施日 | 令和 年 月 日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| | |
| | |
| | |